

# 大中PRIDE



大津町立大津中学校  
生徒指導通信2号

令和6年5月14日(火)  
文責：岡村 康平

## 空を見れば…～お母さん、いつもありがとう～

先週の12日は「母の日」。今回はインターネット上に載っていた、ある話を引用させていただきます。

私の姉の息子。今年で小学4年生になる甥っ子から一通の手紙を受け取りました。

「僕のお母さんに元気をもらってほしいんです。プレゼントをあげたいけれど、お小遣いは329円しかありません。この値段で、お母さんが喜ぶものは何でしょうか？」

という切ない内容でした。

私の姉（その子の母親）は重い病で、残された時間が長くはありません。しかし、甥っ子はその真実を知らないのです。心が揺れる中、私は今日、彼をデパートへ連れて行きました。

「お母さん、最近ダイエットしてるみたい。あんまりご飯食べないし、強がって笑ってるように見えるんだ。ダイエットのおやつ、買えるかな？」

「お母さんと水族館に行きたいんだ。お母さんに靴、買えるかな？」

「手紙だったら…恥ずかしいけど、書いてみる。そうだ、折り鶴にメッセージを書くよ。」

「お花もいいけど、枯れると悲しいよね。サボテンの方が長持ちするかな？」

「お母さんの手、冷たかったな。手袋は？でも、冬にしか使えないよね。」

「あ、お母さんがキャビア食べたいって言ってたよね！」

彼の一言一言に、母を思う純粋な気持ちが込められていて、私は涙が止まらない気持ちを抑えるのに苦労しました。

彼は最終的に「靴にする！お母さんと色々な場所に行きたいから！」と言いました。

しかし、300円程度で靴は買えません。

私は彼がトイレに行っている間に靴売場へ駆け込み、事情を話して特別な取り計らいをお願いしました。私自身、後で足りない分を支払う覚悟でした。

店員さんも情熱に答えてくれ、靴売場に「300円均一」という手作りの看板を置いてくれました。

「これにする！」と彼が選んだのは、白いヒールの靴でした。レジで精算する際、店員さんは「ちょうど300円です」と微笑んでくれました。

彼は、早く母にプレゼントを渡したくて、病院に急ぎました…。

「お母さん、プレゼントだよ！」

大きな声で病室のドアを開けた甥っ子。

プレゼントを受け取り、母は涙を流しながら

「ありがとう。でも、お母さんね……。もう外に出かけることは難しいの。」と打ち明けました。

甥っ子は、一瞬驚きの表情を浮かべた後、顔を上げて言いました。

「お母さん、一生懸命生きた人は星になるって。空を見れば、お母さんがいるから寂しくないよ。だから、諦めないでね。」

そして甥っ子は続けました。

「僕、お母さんと水族館に行きたかったんだ。だからお母さんに似合う靴を選んだよ。」

母親はその言葉に涙を流し、息子を強く抱きしめました。

いつもご飯を作ってくれたり、洗濯物を洗ったり、干してくれたり、たたんでくれたり、部屋の掃除をしてくれたり、「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」「おやすみ」と言ってくれたり…。当たり前と思っている日常は、決して当たり前のことではありません。

人には色々な事情があるので、若さから親御さんを許せないという人がいるかもしれません。そんな人は、まずあなたが幸せになってほしいです。あなた自身が幸せになったとき、きっと自然に親御さんと分かり合える自分がいるかもしれません。あなたたちは『親を大切にしていますか』…。

いつも本当にありがとう…。